

入室に際してよくあるお問い合わせの内容をQ & Aの形式で用意いたしました

入室テストについて

Q、「入室テストは難しいのですか？」

A、学校の授業レベルを超えた問題はほとんどありません。教室で実施している全国模試を利用しています。全国平均点は65点～70点程度（中1英語の前半は80点～85点）ですので基本的な問題ばかりではありません。小学部では各教科50点、中学部では各教科60点以上を目安としていますが、絶対ではありません。

Q、「入室テストで不合格となることはあるのですか？」

A、入室テストは生徒をお預かりする上で学力を把握しておきたいという意味合いが大きいいため、小学部ではほとんどありません。しかし、中学部では中1から中3へと学年が上がるにつれて不合格と判断せざるを得ないケースが増えてきます。

授業について

Q、「何人の先生が指導しているのですか？」

A、2008年夏より代表である中村が一人で全学年、全教科を指導しています。

Q、「クラス編成はどのようになっていますか？」

A、2008年より、小学5年、小学6年受験クラス、小学6年公立クラス、中学1年、中学2年、中学3年で各1クラスで、クラス定員は各10名です。

Q、「補習授業ですか進学授業ですか？」

A、一斉指導による先取り授業で、学校の補習授業ではありません。小6の公立コースでさえ、教科書レベルを超えた応用問題に多くの時間が充てられます。中学部の英語も定期テスト対策期間を除いては塾用教材を用いて文法学習を中心に学習を進めています。

Q、「小学5年は中学受験用の授業ですか？」

A、特に中学受験を前提とした授業ではありませんが、受験に対応できるだけの授業内容にはなっています。利用する教材は中学受験用です。これは、小5では比較的学力層が広がり小6から公立コースと受験コースに分かれることになるため小5の当初から中学受験クラスとはしていないことによります。

Q、「授業を欠席した場合の補習や振り替えはありますか？」

A、実施をお約束することは出来ません。しかし、これまで病欠やご家庭の都合(慶弔)での欠席に対しては可能な限り授業前後で時間を取り補習を行っています。しかし、欠席連絡をいただけない無断の欠席に対してはその補習も行っておりません。

(注) 無届けでの欠席が2回続いた段階で除籍としておりますのでご注意ください。

Q、「宿題の量は？幕山進学教室は宿題が多いと聞いているが・・・」

A、毎回各教科で出す宿題の量は小学部、中学部ともに30分～40分程度です。決して多い量ではありません。保護者からは「宿題をもっと出すように」との要望をいただくこともよくあります。ただし、かかる時間については個人差がありますし、小学生では担任の教師(宿題を多く出す教師もいます)、中学生では部活動との関係で負担とを感じる生徒もいるでしょう。小6受験コースでは授業時間数が多くなることからどうしても宿題に追われることとなります。

Q、「途中からコースの変更はできるのですか？」

A、小6 公立コース→受験コース、中3 / 2科→5科への変更は行わない方が良いでしょう。授業進度が違いますので中途からの変更には無理があります。他コースは柔軟に対応いたします。

Q、「理科、社会は受講した方がいいですか？」

A、ご家庭の判断にお任せしています。アドバイスさせていただくと、中学受験をお考えの場合は小学5年次の理科、社会は受講していた方が6年の学習負担を軽くすることが出来ます。また、中学3年生は5科の受講をおすすめいたします。これは高校受験が5科目の入試科目で判定されるからです。当教室は開設して20年が経過しましたが、この20年間で2名の公立高校不合格者を出してしまいました(ともに大門高校)。その2名は英語と数学のみの2科受講生であったため十分なフォローが出来なかったことが大きな原因であったと考えられるからです。ただし、中学3年の理社国の指導時間は限られますので受講したからと言って大きな学力向上を期待されても困ります。

(注) 小学5年、小学6年公立、中学1年、中学2年の理科・社会クラス受講希望者が4名未満の場合は開設いたしませんのでご了解ください。

Q、「宿題は親がみなければなりませんか？」

A、中学生になると保護者の干渉を受け付けなくなりますので、小学生の場合としてお答えいたします。基本的には宿題の実行を保護者が手助けすることは避けていただきたいと思っています。ただし、答えは示さずに一緒に辞書、参考教材を使って調べる、算数の思考過程を一緒に考える、等は余裕があれば行っていただいて構いません。

Q、「講習会は必ず参加しなければならないのですか？」

A、基本的には全員参加が原則です。しかし、部活動やご家庭の都合による欠席は認めておりますので、必ず保護者より理由とともに事前にお申し出下さい。無届けでの欠席は除籍としております。夏期・冬期の講習会は復習が中心となりますが、欠席によってその後の授業について来れなくなり退室となるケースが中1生を中心によくありますのでご注意ください。講習会も年間カリキュラムの中に組み込まれており授業が進められます。「復習なら特に必要ないだろう」といった安易な判断をされませんように。

Q、「小6の受験コースと公立コースはどう違うのですか？」

A、受験コースは中学受験を前提としたコースです。したがって受験を考えない場合は選択されないように願います。対象とする学校は広大附属福山中学校および理科、社会を入試科目に含む中学校(近大附属福山、福山暁の星女子、金光学園等)です。

公立コースは公立中学校への進学を前提としていますが、例年数名の生徒が私立中学を受験しています。盈進、英数学館、銀河学院、清心(岡山)レベルであれば算数、国語の授業は充分に対応していますし、過去全員が合格しています。過去の公立コースからの私立進学校は盈進、福山暁の星、金光学園、銀河学院、英数学館、清心です。

(注) 小6 受験コースへの小学5年からの進級および新入室については生徒・ご家庭のご要望にお応えできない場合があります。非常に厳しい学習となるため入室(進級)テストで一定以上の成績を取ることが求められます。

Q、「中途入塾はできますか？」

A、できます。ただし、クラス定員(10名)に達している場合はお断りさせていただいております。2010年度は新小学5年生が新年度(3月)開始を待たずにすぐに定員となりました。新中学1年生も同様に定員となることよくあります。また、小学6年受験クラスと中学3年生は9月以降の入室は受け付けておりません。特別の事情がありましたら別途ご相談ください。

中途入塾(入室)でご注意いただきたいのは学習進度が公立学校よりも進んでいるため、入室の時期が遅れば遅れるほどその差が広がり生徒に負担がかかってくることです。可能な限り日曜日等に時間をとり進度調整(未習部分の補習)を行います。決して十分な時間がとれません。この点をご承知おきください。

費用について

Q、「授業料以外に費用はどのくらいかかるのですか？」

A、実力テスト費（1回 1,600円）と教材費（購入実費）を前期、後期の2回に分けて納入いただきます。他には夏期・冬期の講習会費が必要となります。講習会が実施される期間は通常授業はありません。また、授業料は7月は講習会により実施日数が少なくなりますので2割（兄弟生は4割）を引かせていただいております。
（注）一旦納入いただいた費用は、原則として返金致しません。

Q、「授業料の納入方法はどうなっていますか？」

A、手数料は当教室の負担で郵便口座からの自動引き落としをお願いしております。しかし、現金での納付もできますのでその旨お申し出下さい。

その他

Q、「幕山進学教室はレベルが高いと聞いているが・・・」

A、そのようなことはありません。ごく普通の子供達ばかりです。中学生などはこの教室に来ていなければほとんどの生徒が定期テストの平均点程度の成績でしょう。ただし、どの生徒も素直によくがんばります。しかし、学校の授業が理解できない、学校の授業について行けない、という生徒は当教室で行っているような先取り授業を受けさせるべきではないと考え、入室をお断りすることがあります。そのようなことから「レベルが高い」といった誤ったウワサが流れているのではないのでしょうか。

Q、「生徒をやめさせることがあると聞いているが・・・」

A、はい、ございます。年間20名前後の生徒を退室させた年が数年続いたことがあります。生徒数が激減した最大の理由です。この2～3年は年間6～10名程度です(2010年時点)。下に書きましたウワサの原因の一つです。退室をお願いする理由はさまざまですが、「他生徒の学習の妨げとなる」「学習意欲が極端に低い」「保護者の多大な期待に応えられない」「他生徒との学力差が大きく、十分なフォローができない」などです。無責任とのご批判も多くいただきますが、むしろ誠意を持って対応しているつもりです。

Q、「幕山進学教室は恐ろしく厳しいと聞いているが・・・」

A、年間を通してさまざまな理由から退室をすすめることが多くあるのは事実です。宿題忘れや授業態度の悪い生徒を厳しく注意することは当然のことと考えます。ただし、よく問い合わせがありますが生徒を「たたき、なぐる」といったことはありません。最近では子供も甘くなっており強くしかるとすぐに投げ出すようにやめて行く生徒が多くなっているのは残念なことです。

かなり誇張された、異様に「おそろしいウワサ」を今もよく耳にしますが、おかげでおかしな生徒が入り込んでくるのがほとんど無くなったのは幸いなことだと思っております。

Q、「他の習い事(部活)との両立は可能ですか？」

A、今は多くの生徒が複数の習い事を持っています。好きで取り組んでいるのであれば大切にしたいと思っていますし、中学生は何よりも部活動が生活の中心であってしかるべきことです。それらを犠牲にしての通塾を求めることは致しません。

ただし、小学6年受験クラスでは習い事やご家庭の行事をセーブしていただき、極力欠席のないようにご協力をお願いいたします。学習内容の濃さや進度の速さから理解がつかず原因となります。

Q、「私立中学生や国立中学生は入室できないのですか？」

A、申し訳ないのですが入室をお断りしております。これは国私立中学校の授業進度(カリキュラム)や定期テストの時期が公立中学校と大きくずれていることによります。しかし、外部受験(高校入試で他校を受験)をする場合は例外として受け入れることがあります(当教室の小学部卒業生に限る)のでご相談ください。